



学校の誕生日と愛校心

1学期も半分ほど過ぎました。

5月17日は、沖洲小学校の149回目の創立記念日でした。子供たちにとって、少しでも身近な言葉にしたいと考え、5月13日の朝会で、次のような話をしました。

☆ 「5月17日は何の日か。」

☆ 「創立記念日という名の学校の誕生日である。」

☆ 「わが沖洲小学校は、149才になる。」

☆ 「みんなを守り、育てている学校である。5月17日には、学校に対して『おめでとう』と言ってくれたら嬉しい。」

すると、3年生のある女の子の呼びかけから始まり、周囲のみなさんが応えてくれたあるドラマがありました。

5月17日の昼休み終盤、3年生の子供たちと担任の先生が運動場に集まりました。また、その動きを知った他学年の人たちも混じっていたようです。

運動場に集まった人たちは、校舎の方に向き、「ハッピーバースデー」の歌を合唱しました。突然の出来事に驚きつつも、その意図を知った6年生も反応し、校舎に向けて拍手を送ります。

学校に対して、最高の笑顔と歌声をプレゼントしたひとときでした。



「学校を大切に」「学校を愛そう」とよく言われます。掃除をする、教材・教具を大切に使う等、具体的な姿は色々あります。でも、こんな姿は、初めて見ました。その女の子の心根・発想・行動力に驚き感動するとともに、「よしやろうよ」と応じて、共に行動した子供たち・先生たちの心根・行動力にも感心しました。

また、このお話には続きがあります。呼びかけた女の子と、それに応じたある男の子が、学校あてのバースデーカードを作成し、届けてくれました。今、校長室の校舎の写真に添えています。今回の出来事から、そうすると学校が喜ぶような気がしたのです。

市・県体操発表会に見る挑戦心とあこがれ

6月6日（木）に市体操発表会、6月9日（日）に県体操発表会がありました。県体操発表会は、徳島市内の学校がローテーションで参加しているため、出場する機会は、約10年に一度だそうです。本校は、今年度その機会に恵まれ、5・6年生30名を越える人が参加しました。練習には、もっと多くの人に参加していました。限られた時間のなかで、放課後に練習に励み、技のレベルアップに取り組んでいました。

直前の6月3日（月）には、体育館で壮行会が開かれ、全校のみなさんに技を披露してくれ、拍手喝采・歓声を受けました。技の素晴らしさはもちろんですが、このような場に「挑戦しようとする心」に感心しました。

そして、技を見た人たちの中には、「自分もあんなことができればいいな」とあこがれを抱いた人もいたはずで、また、同じことでなくても、「自分の場合はこれ」と、挑戦することをもつことができることも素晴らしいことです。



(体操)



(マット運動)



(鉄棒)



(跳び箱)

下級生は、上級生本人たちが思っている以上に先輩たちを見ています。自然と真似をします。「挑戦」や「あこがれ」は、人を強くします。

そして、今回もそうでしたが、その側には必ず先生たちが寄り添ってくれています。教えてくれたり、励ましてくれたりします。安心して取り組んでほしいと思います。

(文責 米田直紀)